



7000 および 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ

次の各トピックでは、Firepower システムにおける Firepower 7000 シリーズおよび 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティの設定方法について説明します。

- [7000 および 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティについて \(1 ページ\)](#)
- [デバイスのハイ アベイラビリティの確立 \(7 ページ\)](#)
- [デバイスのハイ アベイラビリティの編集 \(8 ページ\)](#)
- [高可用性ペアの個々のデバイスの設定 \(9 ページ\)](#)
- [高可用性ペアの個々のデバイス スタックの設定 \(10 ページ\)](#)
- [高可用性ペアのデバイスでのインターフェイスの設定 \(11 ページ\)](#)
- [デバイスのハイ アベイラビリティ ペアにおけるアクティブ ピアの切り替え \(11 ページ\)](#)
- [高可用性ピアのメンテナンス モードへの切り替え \(12 ページ\)](#)
- [高可用性ペアのスタック内のデバイスの交換 \(13 ページ\)](#)
- [デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有 \(14 ページ\)](#)
- [トラブルシューティングのためのデバイスのハイ アベイラビリティの状態共有統計情報 \(17 ページ\)](#)
- [デバイス高可用性ペアの分離 \(20 ページ\)](#)

7000 および 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティについて

7000 および 8000 シリーズ デバイス ハイ アベイラビリティを利用することで、2つのピア デバイス間または2つのピア デバイス スタック間のネットワーク機能と設定データの冗長性を確保できます。

2つのピア デバイスまたは2つのピア デバイス スタックを、ポリシーの展開、システムの更新、登録を行う単一の論理システムとして機能するハイ アベイラビリティ ペアとして構成することにより、構成の冗長性を実現できます。その他の設定データは、システムによって自動的に同期されます。



- (注) スタティック ルート、非 SFRP IP アドレス、およびルーティングの優先順位は、ピア デバイスまたはピア デバイス スタック間で同期されません。各ピア デバイスまたはピア デバイス スタックは、独自のルーティング インテリジェンスを維持します。

関連トピック

[SFRP](#)

[仮想スイッチの詳細設定](#)

デバイスのハイ アベイラビリティ要件

7000 および 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアを構成するには、以下に従う必要があります。

- 単一デバイスと単一デバイスのペア、またはデバイス スタックとデバイス スタックのペアのみを構成できます。
- 両方のデバイスまたはデバイス スタックが正常なヘルス ステータスであり、同じソフトウェアを実行し、同じライセンスが有効になっている必要があります。詳細については、[ヘルス モニタの使用](#)を参照してください。特に、デバイスでのハードウェア障害は許容されません。ハードウェア障害が発生すると、デバイスがメンテナンスモードに入り、フェールオーバーがトリガーされます。



- (注) デバイスのペアを構成した後は、ペアを構成する個々のデバイスのライセンス オプションを変更することはできませんが、ハイ アベイラビリティ ペア全体のライセンスは変更できます。

- 各デバイスまたはスタック内の各プライマリ デバイスにインターフェイスを設定する必要があります。
- 両方のデバイスまたはデバイス スタックのプライマリ メンバーが同じモデルである必要があります。銅ケーブルまたは光ファイバの同じインターフェイスが必要です。
- デバイス スタックのハードウェア構成は同一でなければなりません。インストール済みのマルウェアストレージパックについてはその限りではありません。たとえば、Firepower 8290 と別の 8290 のペアを構成することができます。どちらかのスタック内でマルウェア ストレージパックが、どのデバイスに存在しなくても、1つのデバイスにのみ、またはすべてのデバイスに存在しても構いません。



注意 シスコから供給されたハードドライブ以外はデバイスに取り付け
ないでください。サポートされていないハードドライブを取り付
けると、デバイスが破損する可能性があります。マルウェアスト
レージパック キットは、シスコからのみ購入でき、8000 シリー
ズ デバイスでのみ使用できます。マルウェア ストレージ パック
のサポートが必要な場合は、サポートにお問い合わせください。
詳細については、*Firepower System Malware Storage Pack Guide*を参
照してください。

- デバイスが NAT ポリシーのターゲットとなっている場合、両方のピアに同じ NAT ポリ
シーを適用する必要があります。
- マルチドメイン展開では、7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティま
たはリーフ ドメイン内のデバイス スタックのみを確立できます。

関連トピック

[SFRP](#)

[仮想スイッチの詳細設定](#)

デバイスハイアベイラビリティフェールオーバーとメンテナンスモー ド

7000 および 8000 シリーズ デバイス ハイ アベイラビリティのフェールオーバーは、手動また
は自動で行われます。手動でフェールオーバーをトリガーするには、ピアを構成するデバイス
またはスタックのいずれかでメンテナンス モードを開始します。

自動フェールオーバーは、アクティブ デバイスまたはアクティブ スタックの正常性が損なわ
れた場合、システム更新時、または管理者権限によりデバイスがシャットダウンされた場合に
発生します。また、自動フェールオーバーは、アクティブ デバイスまたはデバイス スタック
で NMSB 障害、NFE 障害、ハードウェア障害、ファームウェア障害、重大なプロセス障害、
ディスク フル エラー、または 2 つのスタック構成のデバイス間のリンク障害が起きた場合にも
発生します。スタンバイのデバイスまたはスタックの正常性がアクティブ デバイス同様に損
なわれている場合は、フェールオーバーは行われず、クラスタは縮退状態になります。また、
いずれかのデバイスまたはデバイス スタックがメンテナンス モードになっている場合も、
フェールオーバーは行われません。アクティブスタックからスタック ケーブルを切断すると、
そのスタックはメンテナンス モードに入ることに注意してください。アクティブ スタックの
セカンダリ デバイスをシャットダウンした場合も、スタックはメンテナンス モードに入ります。



(注) ハイ アベイラビリティ ペアのアクティブなメンバーがメンテナンス モードになり、アクティ
ブロールが他のピアメンバーにフェールオーバーされた場合、元のアクティブピアのメンバー
は、通常動作に復帰したときに自動的にアクティブ ロールを再要求しません。

関連トピック

[SFRP](#)[仮想スイッチの詳細設定](#)

デバイスの高可用性ペアでのポリシーの導入と更新

ポリシーを導入する際は、個々のデバイスやデバイススタックではなく、デバイスの高可用性ペアにポリシーを導入します。ポリシーの導入が失敗すると、システムはいずれのデバイスまたはスタックにもポリシーを導入しません。ポリシーは最初にアクティブ デバイスまたはスタックに導入されてから、スタンバイに導入されます。したがって、高可用性ペアでは常に、ピアのいずれかがネットワークトラフィックを処理します。ポリシーの導入が完了すると、デバイスは自動的にメンテナンス モードから削除されます。



注意

展開する際にリソースを要求すると、いくつかのパケットがインスペクションなしでドロップされることがあります。また、一部のコンフィギュレーションを展開すると、トラフィックのインスペクションを中断する Snort プロセスが再開します。このインスペクション中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インスペクションが行われずに受け渡されるかは、管理対象デバイスのモデルおよびトラフィックの処理方法に応じて異なります。[Snort® の再起動によるトラフィックの動作](#)を参照してください。Firepower 7010、7020、および 7030 の管理対象デバイスでは、設定変更の展開に最大5分かかる場合があります。利用できない時間を最小限にするために、導入は変更時間帯に実行します。[Snort® の再起動シナリオ](#)および[展開またはアクティブ化された際に Snort プロセスを再起動する設定](#)を参照してください。

個々のデバイスまたはスタックが更新を受信するのではなく、高可用性ペアを構成するデバイスが単一のエンティティとして更新を受信します。更新が開始されると、システムは最初にスタンバイデバイスまたはスタックに更新を導入します。それによって、そのデバイスまたはスタックはメンテナンスモードに入ります。この状態は、必要なプロセスが再開してデバイスがトラフィックの処理を再び開始するまで維持されます。その後、システムはアクティブデバイスまたはスタックに更新を導入して、同じプロセスを行います。

関連トピック

[SFRP](#)[仮想スイッチの詳細設定](#)

展開タイプとデバイス ハイ アベイラビリティ

7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ構成は、Firepower システム展開（パッシブ、インライン、ルーテッド、またはスイッチド）に応じて決定します。同時に複数のロールを持たせてシステムを展開することもできます。4つの展開タイプのうち、ハイアベイラビリティを用いた冗長性をもたらすためにデバイスまたはスタックの構成が必要になるのは、パッシブ展開のみです。他の展開タイプでは、デバイス ハイ アベイラビリティを使用しても使用しなくてもネットワークの冗長性を確立できます。各展開タイプにおけるハイアベイラビリティの概要については、以降の各項を参照してください。



- (注) レイヤ3の冗長性については、デバイス ハイ アベイラビリティを使わずに、Cisco Redundancy Protocol (SFRP) により実現できます。SFRP では、指定した IP アドレスに対する冗長なゲートウェイとしてデバイスを機能させることができます。ネットワークの冗長性では、2つのデバイスまたは2つのスタックが同一のネットワーク接続を提供するように設定することで、ネットワーク上の他のホストに対する接続を維持できます。

パッシブ展開での冗長性

一般に、パッシブ インターフェイスは中央スイッチのタップ ポートに接続されます。この場合、スイッチを通過するトラフィックのすべてを、パッシブ インターフェイスで分析することが可能になります。複数のデバイスが同じタップ フィードに接続されている場合、システムはそれぞれのデバイスからイベントを生成します。ハイ アベイラビリティ ペアとして構成されているデバイスは、アクティブまたはスタンバイのいずれかとして機能するため、システムはシステム障害が発生したとしてもトラフィックを分析できると同時に、重複するイベントを防止できます。

インライン展開での冗長性

インラインセットは、自身を通過するパケットのルーティングを制御できないため、展開環境で常にアクティブになっていなければなりません。したがって、冗長性を確立できるかどうかは、外部システムがトラフィックを適切にルーティングするかどうかに依存します。冗長インラインセットは、7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティを使用しても使用しなくても設定できます。

冗長インラインセットを展開するには、循環ルーティングを防止する一方で、トラフィックがインラインセットのいずれか1つだけを通してネットワーク トポロジーを設定します。インラインセットのいずれかで障害が発生すると、周辺ネットワーク インフラストラクチャがゲートウェイ アドレスへの接続が切断されたことを検出し、ルートを調整して冗長セット経由でトラフィックを送信します。

ルーテッド展開での冗長性

IP ネットワーク内のホストは、既知のゲートウェイ アドレスを使用してトラフィックをさまざまなネットワークに送信する必要があります。ルーテッド展開で冗長性を確立するには、ルーテッド インターフェイスがゲートウェイ アドレスを共有し、そのアドレスに対するトラフィックを常に1つのインターフェイスだけが処理するようにしなければなりません。そのためには、仮想ルータで同じ数の IP アドレスを維持する必要があります。1つのインターフェイスがアドレスをアドバタイズします。そのインターフェイスがダウンすると、スタンバイ インターフェイスがアドレスのアドバタイズを開始します。

ハイ アベイラビリティ ペアのメンバーではないデバイスでは、複数のルーティングされた インターフェイス間で共有するゲートウェイ IP アドレスの設定し、SFRP によって冗長性を確保します。SFRP は、7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティを使用しても使用しなくても設定できます。また、OSPF や RIP などのダイナミック ルーティングを使用し、冗長性を確保することもできます。

スイッチド展開での冗長性

スイッチド展開では、高度な仮想スイッチ設定の1つであるスパンニング ツリー プロトコル (STP) を使用して冗長性を確保します。STPはブリッジ型ネットワーク トポロジを管理するプロトコルです。このプロトコルは、スタンバイリンクを設定することなく、冗長リンクでスイッチドインターフェイスの自動スタンバイを行えるように設計されています。スイッチド展開でのデバイスは、STPに依存して、冗長インターフェイス間のトラフィックを管理します。同じブロードキャストネットワークに接続されている2つのデバイスは、STPによって計算されたトポロジに基づいてトラフィックを受信します。



- (注) 7000または8000シリーズデバイスのハイアベイラビリティペアに展開する予定の仮想スイッチを設定する際には、STPを有効にするよう強く推奨します。

関連トピック

[SFRP](#)

[仮想スイッチの詳細設定](#)

デバイスのハイ アベイラビリティ設定

7000または8000シリーズデバイスのハイアベイラビリティを確立する際には、デバイスまたはスタックのうち的一方をアクティブとして指定し、もう一方をスタンバイとして指定します。システムは、マージした設定を、ペアを構成するデバイスに適用します。競合が存在する場合、システムはアクティブとして指定されたデバイスまたはスタックの設定を適用します。

デバイスのペアを構成した後は、ペアを構成する個々のデバイスのライセンスオプションを変更することはできませんが、ハイアベイラビリティペア全体のライセンスは変更できます。スイッチドインターフェイスまたはルーテッドインターフェイスで設定しなければならないインターフェイス属性がある場合、システムはハイアベイラビリティペアを確立しますが、そのステータスを保留中に設定します。ユーザが必要な属性を設定した後、システムはハイアベイラビリティペアを完成させて、正常なステータスに設定します。

ハイアベイラビリティペアを確立した後、[デバイス管理 (Device Management)] ページでは、ピアデバイスまたはスタックが単一のデバイスとして扱われます。デバイスのハイアベイラ

ビリティペアは、アプライアンスリストではハイアイコンアイコン () が表示されます。ユーザが行った設定変更は、いずれもペアを構成するデバイスの中で同期されます。[デバイス管理 (Device Management)] ページには、ハイアベイラビリティペアのどのデバイスまたはスタックがアクティブであるかが表示されます。アクティブなデバイスまたはスタックは、手動または自動フェールオーバーが発生すると変更されます。

デバイスのハイアベイラビリティペアの登録を Firepower Management Center から削除すると、その登録は両方のデバイスまたはスタックから削除されます。デバイスのハイアベイラビリティペアを Firepower Management Center から削除する方法は、個々の管理対象デバイスを削除する場合の方法と同じです。

登録が削除されたハイ アベイラビリティ ペアは、別の Firepower Management Center に登録できます。ハイ アベイラビリティ ペアを構成する一方のデバイスを登録するには、ペアのうちアクティブ デバイスにリモート管理を追加してから、そのデバイスを Firepower Management Center に追加します。これにより、ペア全体が追加されます。ハイ アベイラビリティ ペアのうちスタック構成のデバイスを登録するには、どちらか一方のスタックのプライマリデバイスにリモート管理を追加してから、そのデバイスを Firepower Management Center に追加します。これにより、ペア全体が追加されます。

デバイスのハイ アベイラビリティ ペアを確立したら、ハイ アベイラビリティ リンク インターフェイスを設定する必要があります。



- (注) ハイ アベイラビリティ ペアのデバイスを使用してダイナミック NAT、HA 状態共有、または VPN を設定する場合は、ハイ アベイラビリティ リンク インターフェイスを構成する必要があります。詳細については、[HA リンク インターフェイスの設定](#)を参照してください。

関連トピック

[SFRP](#)

[仮想スイッチの詳細設定](#)

デバイスのハイ アベイラビリティの確立

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin/Network Admin



- (注) この手順では、7000 & 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアの確立について説明します。Firepower Threat Defense のハイ アベイラビリティの確立については、[Firepower Threat Defense ハイ アベイラビリティ ペアの追加](#)を参照してください。

7000 & 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアを確立する際には、デバイスまたはスタックのうち的一方をアクティブとして指定し、もう一方をスタンバイとして指定します。システムは、マージした設定を、ペア内のデバイスに適用します。競合が存在する場合、システムはアクティブとして指定されたデバイスまたはスタックの設定を適用します。

マルチドメイン展開では、ハイ アベイラビリティ ペアのデバイスは同じドメインに属している必要があります。

始める前に

- すべての要件が満たされていることを確認します。[デバイスのハイアベイラビリティ要件 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] ドロップダウンメニューから、[ハイ アベイラビリティの追加 (Add High Availability)] を選択します。
- ステップ 3** 名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイス タイプ (Device Type)] で [Firepower] を選択します。
- ステップ 5** デバイスまたはスタックにロールを割り当てます。
- [アクティブ ピア (Active Peer)] のデバイスまたはスタックをハイ アベイラビリティ ペア用に選択します。
 - [スタンバイ ピア (Standby Peer)] のデバイスまたはスタックをハイ アベイラビリティ ペア用に選択します。
- ステップ 6** [追加 (Add)] をクリックします。このプロセスではデータの同期が行われるため、プロセスが完了するまでに数分かかります。
-

次のタスク

HA 状態共有、ダイナミック NAT、または VPN をデバイスに設定する予定の場合は、高可用性ペアの各デバイスで HA リンク インターフェイスを作成します。HA リンク インターフェイスの詳細については、[HA リンク インターフェイスの設定](#) を参照してください。

デバイスのハイ アベイラビリティの編集

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアを確立した後は、デバイス設定を変更すると、通常はハイ アベイラビリティ ペア全体の設定も変更されます。

[一般 (General)] セクションのステータス アイコンにマウスのポインタを合わせると、ハイ アベイラビリティ ペアのステータスが表示されます。また、ペア内のデバイスまたはスタックのどれがアクティブ ピアで、どれがスタンバイ ピアであるかも確認できます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** 設定を編集するデバイスのハイアベイラビリティペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
- マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。
- ステップ 3** [ハイアベイラビリティ (High Availability)] ページのセクションを使用して、単一のデバイス設定を変更する場合と同じように、ハイアベイラビリティペアの設定を変更します。

高可用性ペアの個々のデバイスの設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズ デバイスの高可用性ペアを確立した後でも、ペア内の個々のデバイスに対して設定できる属性がいくつかあります。ペアリングされたデバイスに変更を加える方法は、単一のデバイスに変更を加える場合の方法と同じです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** 設定を編集するデバイスの高可用性ペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
- マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。
- ステップ 3** [デバイス] タブをクリックします。
- ステップ 4** [選択されたデバイス (Selected Device)] ドロップダウンリストから、変更するデバイスを選択します。
- ステップ 5** [デバイス (Devices)] ページのセクションを使用して、単一のデバイスに対して変更を加える場合と同じように、ペアリングされた個々のデバイスに変更を加えます。

高可用性ペアの個々のデバイス スタックの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	Firepower 8140、 Firepower 8200 ファミリー、 Firepower 8300 ファミリー	リーフのみ	Admin/Network Admin

高可用性ペアにスタック構成の 8000 シリーズ デバイスを設定すると、編集可能なスタック属性が制限されます。ペアリングされたスタックの名前は編集できます。また、[高可用性ペアのデバイスでのインターフェイスの設定 \(11 ページ\)](#) で説明している手順に従って、スタックのネットワーク設定を編集できます。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** 設定を編集するデバイスの高可用性ペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。
- ステップ 3** [スタック (Stacks)] タブをクリックします。
- ステップ 4** [選択されたデバイス (Selected Device)] ドロップダウン リストから、変更するスタックを選択します。
- ステップ 5** [一般 (General)] セクションの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
- ステップ 6** 名前を入力します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の導入](#)を参照してください。

高可用性ペアのデバイスでのインターフェイスの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズ デバイスの高可用性ペアの個々のデバイスに、インターフェイスを設定できます。ただし、その場合には、ペアのピアデバイスにも同等のインターフェイスを設定する必要があります。ペアリングされたスタックの場合は、スタックのプライマリデバイスのそれぞれに、同じインターフェイスを設定する必要があります。仮想ルータを設定するとき、その仮想ルータを設定するスタックを選択します。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

ステップ 2 インターフェイスを設定するデバイスの高可用性ペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

ステップ 3 [インターフェイス (Interfaces)] タブをクリックします。

ステップ 4 [選択されたデバイス (Selected Device)] ドロップダウン リストから、変更するデバイスを選択します。

ステップ 5 個々のデバイスに設定する場合と同じようにインターフェイスを設定します。

関連トピック

[仮想ルータ設定](#)

デバイスのハイアベイラビリティペアにおけるアクティブピアの切り替え

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアを確立した後、アクティブなピア デバイスまたはスタックをスタンバイに手動で切り替えることができます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** アクティブピアを変更するデバイスのハイアベイラビリティペアの横にあるアクティブピア切り替えアイコン (🔁) をクリックします。
- ステップ 3** 次の操作を実行できます。
- ハイアベイラビリティペアでスタンバイピアをアクティブピアにすぐに切り替える場合は、[はい (Yes)] をクリックします。
 - キャンセルして[デバイス管理 (Device Management)] ページに戻る場合は、[いいえ (No)] をクリックします。

高可用性ピアのメンテナンスモードへの切り替え

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズデバイス高可用性ペアを設定した後で、デバイスのメンテナンスを実行するために、いずれかのピアをメンテナンスモードに切り替えることで、手動でフェールオーバーをトリガーできます。メンテナンスモードでは、システムが管理目的で管理インターフェイスを除くすべてのインターフェイスをダウンさせます。メンテナンスの完了後、ピアを再度有効にして、通常の動作を再開できます。



- (注) 高可用性ペアの両方のピアを同時にメンテナンスモードにしないでください。これを行うと、そのペアではトラフィックを検査できなくなります。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2** メンテナンスモードを開始するピアの横にあるメンテナンスモード切り替えアイコン (🔧) をクリックします。

ステップ3 [はい (Yes)] をクリックして、メンテナンス モードを確定します。

次のタスク

- メンテナンスが完了したら、メンテナンス モード切り替えアイコン () を再度クリックして、ピアのメンテナンス モードを終了します。

高可用性ペアのスタック内のデバイスの交換

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	Firepower 8140、 8200 ファミリ、 8300 ファミリ	任意 (Any)	Admin/Network Admin

高可用性ペアのメンバーになっているスタックをメンテナンス モードに切り替えた後で、スタック内のセカンダリ デバイスを別のデバイスと交換できます。選択できるデバイスは、現在スタックのメンバーにも、ペアにもなっていないデバイスのみです。新しいデバイスは、デバイス スタックを確立する場合と同じガイドラインに従っている必要があります。

手順

ステップ1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

ステップ2 メンテナンス モードを開始するスタック メンバーの横にあるメンテナンス モード切り替えアイコン () をクリックします。

ステップ3 [はい (Yes)] をクリックして、メンテナンス モードを確定します。

ステップ4 デバイス交換アイコン () をクリックします。

ステップ5 ドロップダウンリストから [交換デバイス (Replacement Device)] を選択します。

ステップ6 [交換 (Replace)] をクリックして、デバイスを交換します。

ステップ7 メンテナンス モード切り替えアイコン () を再度クリックすると、スタックのメンテナンス モードが即時に終了します。

(注) デバイス設定を再展開する必要はありません。

デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有

デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有を使用すると、ハイ アベイラビリティ ペアのデバイスまたはスタックで、可能な限り状態を同期できます。したがって、いずれか一方のデバイスまたはスタックで障害が発生しても、もう一方のピアがトラフィックフローを中断せずに引き継ぐことができます。状態共有を使用しない場合、以下の機能が適切にフェールオーバーしない可能性があります。

- 厳格な TCP 強制
- 単方向アクセス コントロール ルール
- ブロッキングの永続性

ただし、状態共有を有効にすると、システムパフォーマンスが低下することに注意してください。

ハイ アベイラビリティ状態共有を設定するには、あらかじめハイ アベイラビリティ ペアの両方のデバイスまたはスタック構成のプライマリ デバイスで HA リンク インターフェイスを設定し、有効にする必要があります。Firepower 82xx ファミリーおよび 83xx ファミリーには 10 G の HA リンクが必要ですが、他のモデルのデバイスには 1 G の HA リンクで十分です。

HA リンク インターフェイスを変更する前に、状態共有を無効にする必要があります。



- (注) ペアを構成するデバイスでフェールオーバーが発生した場合は、アクティブデバイス上の既存の SSL 暗号化セッションがすべて終了されます。ハイ アベイラビリティ状態共有を設定しているとしても、これらのセッションをスタンバイデバイスで再ネゴシエートする必要があります。SSL セッションを確立しているサーバがセッションの再利用をサポートしている場合でも、スタンバイデバイスに SSL セッション ID がないと、セッションを再ネゴシエートできません。

厳格な TCP 強制

ドメインに対して厳密な TCP 適用を有効にすると、システムは TCP セッションで正常ではないパケットをすべてドロップします。たとえば、未確立の接続で受信した SYN 以外のパケットはドロップされます。状態共有が有効な場合、厳密な TCP 適用が有効にされているとしても、ハイ アベイラビリティ ペアのデバイスは、フェールオーバー後に接続を再び確立することなく TCP セッションを続行できます。厳密な TCP 適用は、インラインセット、仮想ルータ、および仮想スイッチで有効にすることができます。

単方向アクセス コントロール ルール

単方向アクセス コントロール ルールを設定している場合、システムがフェールオーバーの後に接続ミッドストリームを再評価する際に、ネットワークトラフィックが意図されたものとは

異なるアクセス コントロール ルールに一致する可能性があります。たとえば、ポリシーに以下の2つのアクセス コントロール ルールが含まれているとします。

```
Rule 1: Allow from 192.168.1.0/24 to 192.168.2.0/24
Rule 2: Block all
```

状態共有が有効でない場合、フェールオーバーの後に 192.168.1.1 ~ 192.168.2.1 からの許可される接続がまだアクティブになっているために、次のパケットが応答パケットとしてみなされると、システムは接続を拒否します。状態共有が有効であれば、ミッドストリームピックアップが既存の接続に一致することになり、接続が引き続き許可されます。

ブロッキングの永続性

アクセス コントロール ルールやその他の要素に基づいて、最初のパケットで多数の接続がブロックされるとしても、システムが接続のブロッキングを決定する前に、いくつかのパケットを許可する場合があります。状態共有が有効な場合、システムはピアデバイスまたはスタックでも即時に接続をブロックします。

ハイ アベイラビリティ ペアの状態共有を確立するときに、次のオプションを設定できます。

[有効 (Enabled)]

状態共有を有効にするには、このチェックボックスをクリックします。チェックボックスをクリアすると、状態共有が無効になります。

最短フロー寿命 (Minimum Flow Lifetime)

最小セッション時間 (ミリ秒) を指定します。この時間を経過すると、システムがセッションの同期メッセージを送信します。0 ~ 65535 の整数を使用できます。この最小フロー有効期間に達しないセッションは、いずれも同期されず、接続のパケットを受信した時点でのみ、同期が行われます。

最短同期間隔インターバル (Interval)

セッションの更新メッセージ最短間隔 (ミリ秒) を指定します。0 ~ 65535 の整数を使用できます。最短同期間隔を設定することで、特定の接続が最短有効期間に達した後、その接続に対して、設定された値より頻繁に同期メッセージが送信されないようにします。

HTTP URL の最大文字数 (Maximum HTTP URL Length)

ペアを構成するデバイス間で同期する、URL の最大文字数を指定します。0 ~ 225 の整数を使用できます。

関連トピック

[HA リンク インターフェイスの設定](#)

デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有の確立

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有を使用すると、ハイ アベイラビリティ ペア内の 7000 または 8000 シリーズ デバイスまたはスタック間で、可能な限り状態を同期できます。したがって、いずれか一方のデバイスまたはスタックで障害が発生しても、もう一方のピアがトラフィック フローを中断せずに引き継ぐことができます。



注意 7000 または 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ状態共有オプションを変更すると、プライマリ デバイスとセカンダリ デバイスの Snort プロセスが再起動され、両方のデバイスのトラフィック インспекションが一時的に中断されます。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インспекションが行われずに受け渡されるかは、管理対象デバイスのモデルおよびトラフィックの処理方法に応じて異なります。詳細については、[Snort® の再起動によるトラフィックの動作](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** デバイスのハイ アベイラビリティ ペアのデバイスごとに HA リンク インターフェイスを設定します。[HA リンク インターフェイスの設定](#)を参照してください。
- ステップ 2** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 3** 編集するデバイスハイアベイラビリティ ペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。
- ステップ 4** [状態共有 (State Sharing)] セクションの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。
- ステップ 5** 状態共有の値を下げてペア内のピアの準備状況を改善するか、値を上げてパフォーマンスを向上できるようにします。
(注) シスコでは、展開で値を変更する正当な理由がない限り、デフォルト値を使用することを推奨しています。
- ステップ 6** [OK] をクリックして変更を保存します。

次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の導入](#)を参照してください。

関連トピック

- [HA リンク インターフェイスの設定](#)
- [Snort® の再起動シナリオ](#)

トラブルシューティングのためのデバイスのハイアベイラビリティの状態共有統計情報

以下の項では、デバイスごとに表示可能な統計情報と、7000 および 8000 シリーズ デバイスのハイ アベイラビリティ ペアの状態共有設定をトラブルシューティングするためにどのように利用できるかを説明します。

受信メッセージ（ユニキャスト）（Messages Received (Unicast)）

ペアを構成するピアから受信した、ハイ アベイラビリティ同期メッセージの数です。

値は、ピアが送信したメッセージ数と同等になっているはずですが、アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずですが。トラフィックが停止すると、値は安定し、受信したメッセージ数が送信されたメッセージ数と一致します。

トラブルシューティングを行う場合は、受信したメッセージ数と送信されたメッセージ数の両方を確認して増加率を比較し、両方の値が同等であることを確認します。各ピアでの送信数の値は、対応するピアでの受信数の値とほぼ同じ率で増えていなければなりません。

受信したメッセージの数が増加しなくなった場合、または増加率がピアから送信されたメッセージ数に追いついていない場合は、サポートに連絡してください。

受信パケット数（Packets received）

システムはオーバーヘッドを低減させるために、複数のメッセージを単一のパケットにまとめます。[受信パケット数（Packets Received）]カウンタは、デバイスが受信したこれらのデータパケットとその他の制御パケットの数を表示します。

値は、ピアデバイスが送信したパケット数と同等になっているはずですが、アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずですが。受信メッセージの数は、ピアが送信したメッセージ数と同等で、同じ率で増加していなければなりません。したがって、受信したパケットの数も同じ動作となるはずですが。

トラブルシューティングを行う場合は、受信したパケットと送信されたメッセージの両方を確認して増加率を比較し、値が同じ率で増加していることを確認します。ペアを構成するピアでの送信の値が増えている場合、デバイスでの受信の値も同じ率で増えているはずですが。

受信したパケットの数が増加しなくなった場合、または増加率がピアから送信されたメッセージ数に追いついていない場合は、サポートに連絡してください。

合計受信バイト数 (Total Bytes Received)

ピアで受信されたパケットの合計バイト数です。

値は、もう一方のピアが送信したバイト数と同等になっているはずです。アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずです。

トラブルシューティングを行う場合は、受信した合計バイト数と送信されたメッセージ数の両方を確認して増加率を比較し、両方の値が同じ率で増えていることを確認します。ピアを構成するピアでの送信の値が増えている場合、デバイスでの受信の値も同じ率で増えているはずです。

受信バイト数が増加しなくなった場合、または増加率がピアから送信されたメッセージ数に追いついていない場合は、サポートに連絡してください。

受信プロトコルバイト数 (Protocol Bytes Received)

受信したプロトコルオーバーヘッドのバイト数です。この数には、セッション状態同期メッセージのペイロードを除くすべてが含まれます。

値は、ピアが送信したバイト数と同等になっているはずです。アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずです。

トラブルシューティングを行う場合は、受信した合計バイト数を確認してプロトコルデータと比較し、実際の状態データがどれだけ共有されているのかを調べます。プロトコルデータが送信されるデータの大部分を占めている場合は、最小同期間隔を調整できます。

受信したプロトコルバイト数が、受信した合計バイト数と同等の割合で増えている場合は、サポートに連絡してください。受信したプロトコルバイト数が受信した合計バイト数に占める割合は、最小限でなければなりません。

送信メッセージ (Messages Sent)

ピアを構成するピアに送信した、ハイ アベイラビリティ同期メッセージの数です。

このデータは、受信メッセージ数との比較で役立ちます。アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずです。

トラブルシューティングを行う場合は、受信したメッセージ数と送信されたメッセージ数の両方を確認して増加率を比較し、両方の値が同等であることを確認します。

送信したメッセージ数が、受信した合計バイト数と同等の割合で増えている場合は、サポートに連絡してください。

送信バイト数 (Bytes Sent)

ピアに送信したハイ アベイラビリティ同期メッセージの合計送信バイト数です。

このデータは、受信メッセージ数との比較で役立ちます。アクティブに使用されている間は、値が一致しない場合もありますが、その差は小さいはずです。ピアで受信されたバイト数は、この値と同等であり、それより大きい値にはなっていません。

受信した合計バイト数が、送信されたバイト数と同じような比率で増えていない場合は、サポートに連絡してください。

Tx Errors

システムがペアを構成するピアに送信するメッセージ用にスペースを割り当てるときに、メモリ割り当てに失敗した回数です。

この値は両方のピアで常にゼロでなければなりません。この数がゼロでない場合、あるいは着実に増加している場合（これは、システムにメモリ割り当てが不可能なエラーが発生していることを示します）は、サポートに連絡してください。

Tx オーバーラン (Tx Overruns)

システムがメッセージをトランジット キューに入れようとして失敗した回数です。

この値は両方のピアで常にゼロでなければなりません。値がゼロでない場合、あるいは着実に増加している場合、これは、システムが HA リンクの間で過剰なデータを共有していて、データの送信に時間がかかりすぎていることを示します。

HA リンク MTU がデフォルト値 (9918 または 9922) 未満に設定されている場合は、値を増やす必要があります。最小フロー有効期間と最小同期間隔の設定を変更することで、HA リンク間で共有されるデータ量を減らし、この数の増加を防ぐことができます。

この値がゼロにならない場合、または増加し続けている場合は、サポートに連絡してください。

最近のログ (Recent Logs)

システムログには、最新のハイアベイラビリティ同期メッセージが表示されます。ログには、ERROR または WARN メッセージが示されてはなりません。ログの内容は、常にピア間で同等でなければなりません（接続ソケットの数が同じであるなど）。

ただし、場合によっては、対照的なデータが表示されることもあります。たとえば、一方のピアがもう一方のピアから接続を受信したことをレポートしている場合、それぞれのログで参照される IP アドレスは異なります。このログから、ハイアベイラビリティ状態共有接続を包括的に理解し、接続で発生したすべてのエラーを確認できます。

ログに、ERROR または WARN メッセージ、あるいは単なる通知目的ではないようなメッセージが示されている場合は、サポートに連絡してください。

デバイス ハイ アベイラビリティの状態共有統計情報の表示

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

状態共有を確立した後は、[ハイ アベイラビリティ (High Availability)] ページの [状態共有 (State Sharing)] セクションで、設定に関する以下の情報を確認できます。

- 使用されている HA リンク インターフェイスおよび現在のリンク状態
- 問題のトラブルシューティングに使用できる、同期に関する詳細な統計情報

状態共有の統計情報は、主に、送受信されたハイアベイラビリティ同期トラフィックのさまざまな側面に関するカウンタで、その他のエラー カウンタも含まれます。さらに、ハイアベイラビリティ ペアのデバイスごとの最新システム ログも表示できます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

ステップ 2 編集するデバイスハイアベイラビリティ ペアの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

ステップ 3 [状態共有 (State Sharing)] セクションで、統計情報表示アイコン (📊) をクリックします。

ステップ 4 ハイアベイラビリティ ペアがデバイス スタックで構成されている場合、表示する [デバイス (Device)] を選択します。

ステップ 5 次の操作を実行できます。

- [更新 (Refresh)] をクリックして統計情報を更新します。
- [表示 (View)] をクリックして、ハイアベイラビリティ ペアのデバイスごとの最新システム ログを表示します。

デバイス高可用性ペアの分離

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
該当なし	Control	7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin/Network Admin

7000 または 8000 シリーズ デバイス高可用性ペアを分離 (分断) すると、次のようになります。

- アクティブなピア (デバイスまたはスタック) は、完全な展開機能を維持します

- スタンバイピア（デバイスまたはスタック）はインターフェイス設定を失って、アクティブピアにフェールオーバーします。ただし、インターフェイス設定をアクティブのままにすることを選択すると、スタンバイピアは通常の動作を再開します。
- スタンバイピアは、常にパッシブインターフェイスの設定を失います。
- メンテナンスモードのピアは、通常の動作を再開します。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

ステップ 2 分断する高可用性ペアの横にある HA の分断アイコン (🔌) をクリックします。

ステップ 3 必要に応じて、スタンバイピアのインターフェイス設定を削除するためのチェックボックスをオンにします。

この手順により、管理インターフェイス以外のすべてのインターフェイスを管理のためにダウンさせます。

ステップ 4 [Yes] をクリックします。
